

# 医療 + 新世紀

## 企業、医療従事者の理解促進へ

### 退職経験者の思い冊子に

#### 名古屋大 心の不調、困難や葛藤紹介

うつ病などメンタルヘルス（心の健康）の不調で退職する人が増えている。働く人のメンタルヘルスは重要な社会課題だが、それらの当事者が退職前後でどのような困難や葛藤を抱えていたか、復職への障害は何かについて十分理解されていない。名古屋大の研究チームは当事者の思いを、まとめたパンフレットを作成するなど、企業関係者や医療従事者の理解、対話を促進するプロジェクトを始めた。

#### 再発続く

愛知県内の車の部品メーカーに勤めるNさん(37)は7年前、上司からの人格を否定されるような発言がきっかけで気がふさぎ込み、うつ病と診断された。2カ月間の休職を経て復職したが、休日も仕事のことや頭がいつぱいで、気が休まらない。動悸が起り、体の節々が痛くなり、動けなくなってしまう。1年半後に再発と診断され、8カ月間休職した。2週間に1回、病院に通ったが、起きても何もやることができず、人に会うのもおっくうだった。

少しづつ症状は和らぎ、再び復職したが職場の人間関係がうまくいかず、退職を考えた。Nさんは「以前は理不尽な要求が、再発の原因になっていた」と振り返る。

#### うつ病などによる退職経験者の声

- 退職前**
    - 職場の人から怠けや甘えと思われる
    - 退職に対する罪悪感がある
    - 産業医に本音を言っていないか分からない
    - どの病院に行けばいいか分からない
  - 退職中(リワーク利用前)**
    - 収入がなく経済的な不安が大きい
    - 近所の人目が気になる
    - 一日中、誰とも接触せず孤立感がある
    - 会社からの連絡が減り、していいこといけないうまくない
    - 医療機関で症状をうまく伝えられない。適切なアドバイスを得られていない
  - 退職中(リワーク利用中)**
    - いつ復職できるか不安。誰が復職を判断するか分からない
- ※ココロワタシのパンフレットから抜粋

あつても自分のせいにしてきた。今は自分ができるとをすればいいという考えに変わってきた」と振り返る。

#### パワハラ最多

厚生労働省の統計によると、うつ病や適応障害などによる労災の認定件数は2024年度に過去最多の1055件となり、6年連続で増加した。労災認定の主な原因はパワハラが最多で前年度比1.4倍、カスターマーハラスメント(カスタマー)は2.1倍と急増しており、この二つで全体の3割を占める。

#### 孤立感

退職前には、職場で怠けや甘えと思われることに悩んだり、休職に対する罪悪感を持ったりする人がいた。リワーク前の休職時では収入が減り経済的な不安が大きいことや一日中誰とも話さず孤立感が募ることも、リワーク利用中では復職できるか不安だったことが述べられた。

「メンタル不調の従業員はどんどん増えていて、企業側は対応に取り組んでいない」と話すのは、精神障害のリハビリを専門とする作業療法士でもある名古屋大の星野藍子講師(作業療法学)だ。星野さんが非常勤で働く「ココロワタシ」で検索し、名古屋大のウェブサイトからダウンロードできる。

## 大腸の粘膜、小腸細胞で修復

### 東京科学大 慢性炎症で新治療期待

慢性的な炎症により下痢や腹痛が起きる潰瘍性大腸炎の患者では、本来小腸にある「パネート細胞」が大腸に出現し、傷ついた粘膜の修復を促していることが分かったと、東京科学大などが英科学誌に発表した。研究チームは4月30日の記者会見で「治療法の改善や、新しい治療薬への応用が期待できる」と説明した。潰瘍性大腸炎は指定難病で、患者は増加傾向。根本的治療はなく、炎症が長引くと大腸がんのリスクが上がることも知られている。炎症が起きている大腸では、パネート細胞が粘膜に現れることがあ

るが、働きは不明だった。チームは潰瘍性大腸炎の患者の組織を分析。パネート細胞は、炎症が起きている場所で見られることが多かった。さらに、パネート細胞の出す「REG3A」という物質が、周りの細胞の増殖を促して粘膜の修復を助けていた。東京科学大病院の伊藤剛助教は「REG3Aは治療薬に使える可能性がある。内視鏡では見えない炎症を見つける手掛かりにもなりそうだ」と話した。一方、潰瘍性大腸炎からがんになった患者の大腸でもパネート細胞が見つかるため、関連を調べる。



## 難病先端巨大症 AI診断

### 神戸大など チーム開発 手の写真で判定可能

顔や手足など体の先端部分に判定ができるという。肥大する国指定の難病「下」チームによると、先端巨大

## 胸骨圧迫のみは死亡などリスク増

府のデータベースから、2012〜23年に発生した17歳以下の溺水に関連する心停止を抽出。このうち現場に居合わせた人が蘇生法を実施した740例を解析した。また、胸骨圧迫のみでは、人工呼吸を伴う場合に比べ、異常が主な原因である成人

し、AIに約1万枚を学習させた。その後、この病気の患者とそうでない人の手の写真をAIに診断させたところ、指の関節や爪の周辺などに着目。約9割の精度で患者であることを正しく判定できた。

# 学校図書館に 新聞はありますか?

# NO